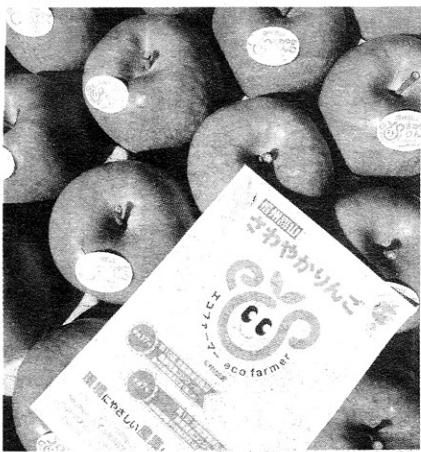


「エコファーマー」一挙に252人

環境保全型農業に注目



JA須高リンゴ部会高山支部（小出三千雄支部長、部会員二百五十四人）の高山共撰所に出荷しているリンゴ生産者二百五十二人全員が十一月一日付で、環境にやさしい農業を行う生産者に与えられる「エコファーマー」の認定を受けた。

二百人を上回る規模で出荷者全員がエコファーマーになったのは県内初。高山村はことし第十回全国環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞を受賞している。環境保全型農業に積極的に取り組む地域として全国的に注目されている。

エコファーマーは「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき認定された農業者の愛称。「土づくり」

「化学肥料の低減」「化学農薬の低減」の三部門を一体的に行う計画を立て、都道府県知事が個人を認定する。

同部会の取得者二百五十二人全員が土壌診断を受けた上で、土づくりに
は村たい肥センターで作った有機肥料「フクイハラコンボ」や稲わらを使い、化学肥料低減ではJA須高オリジナルの「すこうフルーツパワー味物語」を使用、化学農薬低減ではフェロモン剤を使うなどの計画を立てた。

認定されると農業改良資金償還期間の延長など税制や制度資金の特例措置を受けることができる。また、消費者へのア

ピールになり、有利な販売につながるという。同部会は「高山村は害虫の交尾をかく乱するフェロモン剤を使ったリンゴの減農薬栽培を平成三年から地域全体（約百四十

十軒）で進め、信州高山さわやかりんごのオリジナル商品名で販売し、市場の認知度も高い。エコファーマーの認定も受けたい」と話している。「なお高山村は十二月十七日、村保健福祉総合センターで高山村環境保全型農業推進大会を開き、

しい高山産リンゴをアピールし、ブランド化を図りたい」と話している。家庭の生ごみをたい肥にする取り組み等が評価された全国環境保全型農業推進コンクール農林水産大臣賞受賞を祝う。また席上、エコファーマーの認定書授与式を行う。

高山村

部会全員がエコファーマーの認定
共販リンゴのブランド化

J A須高リンゴ部会高山支部(小出三千雄支部長)では、部会員252名がエコファーマーの認定をうけました。高山村は環境に優しい農業を推進しており、平成17年度全国環境保全型農業推進コンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞しました。普及センターでは、「コンクールを受賞したこの時期にエコファーマーを取得することは、消費者や市場に対してさらなるアピール(選ばれる産地となれる)ができる」と考え、J Aや高山村と検討を重ね、高山支部部会員が全員取得を目指すこととなりました。

小出支部長は「こんな時だからこそ、がんばって取得しよう」と部会員をまとめ上げられました。6月24日に村内で説明会を行い、その後、集落代表者の方々は集落のとりまとめに尽力された結果、11月1日付けで認定されました。「エコファーマー」の認定は個人に対して行いますが、全出荷員が認定されたことから、共撰所から出荷されるリンゴ箱全てにエコファーマーの表示をすることができま

あたって認定者全員が土壌分析を行ったことから、その処方箋の見方や今年の施肥を説明した講習会も開催しました。こうした取組も含めて、今回取得したことだけで終わらず、村内農産物のブランド化や緑豊かな農村を自らの手で育てていきたいと考えています。

(須坂支所 田淵秀樹)

普及センター通信

は、消費者や市場に対してさらなるアピール(選ばれる産地となれる)ができる」と考え、J Aや高山村と検討を重ね、高山支部部会員が全員取得を目指すこととなりました。

村内では6月4日に降雹があり、地区によっては果樹全般に甚大な被害があり、特にリンゴの被害は甚大でした。

「エコファーマー」の認定は個人に対して行いますが、全出荷員が認定されたことから、共撰所から出荷されるリンゴ箱全てにエコファーマーの表示をすることができま

取得は県内では初であり、全国的に見てもまれな例です。

さらに、取得に



高山村のリンゴ生産者全員がエコファーマーの認定



エコファーマーの認定書を授与される
JA須高りんご部会高山支部の生産者

長野・高山村
初の大会

進めよう環境保全型農業

全りんご農家にエコ認定

安全で安心な農産物づくりを一層進めようと、長野県高山村とJA須高は17日、同村初の環境保全型農業推進大会を高山村保健福祉総合センターで開き、エコファーマーに認定されたJAりんご部会高山支部の全部会員252人に認定書を授与した。村やJAなどの関係者ら約150人が参加。村民一体となり環境保全型農業に一層取り組むことを確認した。

大会では、安全・安心な農産物作りの必要性を再認識し、消費者重視の産地づくりを一層進めることをうたった「高山村環境保全型農業推進宣言」も採択した。

認定書授与式では同支部の代表16人が登壇し、長野地方事務所長から認定書が授与された。JA須高りんご部会高山支部の小出三千雄支部長はこれまで取り組みの経過

を報告し、「環境に優しい農業を今まで以上に部会一丸となって取り組んでいきたい」と決意を述べた。エコファーマーは土づくりや化学肥料の低減な

ど環境に配慮した農業の計画書を作成し、都道府県知事の認定を受けた農業者。認定件数は年々増え、長野県内には1100人を超えるエコファーマーがいる。しかし、252人が一挙に認定されるのは県内初で、全国でも珍しい。

日本土壌協会の猪股敏郎専務の講演「土づくりと環境保全型農業」もあった。

リンゴで全員がエコ認定

長野・JA須高の高山支部

銘柄化と有利販売へ

【長野・須高】JA須高りんご部会高山支部はこのほど、高山共選所に出荷している全部会員の52人がエコファーマーの認定を受けた。同共選所から出荷されるリンゴ箱すべてにエコファーマーのマークを表示することができ、環境に優しいリンゴをアピールしてブランド化と有利販売につなげる考えた。

これだけ大きな規模も初めて。出荷する部会員全員がエコファーマーの認定を受けたのは長野県内で

初めて。6月から認定取得に向けた作業を進め、11月1日に認定を受けた。今月17日には村とJAの主催で、高山村環境保全型農業推進大会を開き、席上、エコファーマー認定書の授与式を行う。

部会員は稲わらなどを

使って土づくりするほか、JA須高のオリジナル肥料「すこうフルーリ」

環境にやさしい農業に取り組んでいます

エコファーマーとは環境にやさしい農業(土づくり技術、化学肥料の節減技術、農業の節減技術)の導入を促進し、果樹等の認定を受けた農業者です。JA須高りんご部会高山支部では、認定書が認定を受け、樹木に安全、安心なりんごを届けたいと取り組んでいます。



長野県認定



出荷時にリンゴ箱に入れている宣伝チラシ

学肥料・減農薬栽培に取組んでいる。環境に優しいリンゴとして市場でも認知度が高い。村は今年、第10回全国環境保全型農業推進コンクールでも農林水産大臣賞を受賞した。



二百五十二人がエコファーマー認定

りんご部会高山支部は、高山共選所に出荷している部会員二百五十二名が十一月一日、エコファーマーの認定を受けました。環境に優しいりんごの産地ブランド化によるイメージアップと有利販売につながる事期待がかります。

部会員が一丸となりこれだけ大きな規模でエコファーマーの認定を取得したのは県内でも初で、出荷者全員が認定を受けたことにより高山共選所から出荷されるりんご箱すべてにエコファーマーを表示することができま

きます。



した
農業をはじめました
環境にやさしい

です。同部会員は土づくりには「スーパコン」や「フクイハラコンボ」「稲ワラ」を、化学肥料低減にはJ A須高オリジナル肥料「すこうフルーツパワー味物語」

を、減農薬には「コンフューザーA」を使用する計画を立てました。

なお十二月十七日には村とJ Aが主催で、高山村環境保全型農業推進大会を開催し、その席上エコファーマー認定書授与式を行います。

高山村は平成三年から「性フェロモン」によるりんご栽培を全村で取り組み「信州高山さわやかりんご」の愛称で販売し環境に優しいりんご作りで市場でも認知されています。今回エコファーマーの認定により、さらに環境に優しいりんごをアピールしブランド化と有利販売を図りたいと考えています。

高山村環境保全型農業推進大会開催



高山村環境保全型農業推進大会に出席された生産者

高山村とJA須高は十二月十七日、第十回環境保全型農業推進コンクールにおいて「農林水産大臣賞」の受賞を期に、環境保全型農業推進大会を高山村保健福祉総合センターで開催し、席上昨年エコファーマーに認定されたJA須高りんご部会高山支部の部

認定者を代表してりんご部会高山支部長小出三千雄氏は「今後もより一層環境保全に取り組み、安全で安心な農作物を作り、信州高山さわやかりんごのブランド化を計りたい」とあいさつし決意を述べました。

会員二百五十二人に認定書が授与されました。大会には部会員らが約百五十人参加して、安全安心な農作物作りを進め環境保全型農業に今後とも一層の取り組みをして行こうと確認をし、「高山村環境保全型農業推進宣言」を採択いたしました。

認定書授与式では各部落の支会長が代表で長野地方事務所長から認定書を授与されました。



エコファーマー認定書を授与される生産者